

### 第3章 沿海地方政府の提案

2005年11月、本調査の一環として、沿海地方及び黒龍江省において、青森～ウラジオストク航路の潜在荷主ヒアリングを行った。その際、沿海地方政府の運輸課長のパンチェンコ氏と会談する機会を得た。パンチェンコ氏の話のを要約すると以下の通りである。

- ・ 青森～ウラジオストク間のフェリー航路の必要性は理解する。
- ・ 沿海地方としては、中古フェリーの購入を検討している。そのための資金として、500万ドルの用意がある。2006年初には購入したいと考えている。
- ・ 中古フェリーは耐用年数10年程度のものでよい。想定している船は、ドラフト4.5m（最大で5.0m）、スピード18ノット、旅客収容数300人程度、車両収容数車250台程度である。
- ・ 日本の中古フェリー情報を教えて欲しい。
- ・ 航路としては沿海地方の北部海岸都市5ヶ所程度を回り、青森にも寄港する案を考えている。One roundは10日である。
- ・ 沿海地方での船員の確保は問題ない。
- ・ これは民間の事業ではなく、政府の地域開発の一環として行う事業である。政府が地域開発事業として行い、将来は民間に任せる計画である。
- ・ 沿海地方の北部都市はフィッシングやハンティングには最高の観光地である。日本の観光客を多く招きたいと考えている。ホテルの整備などはこれからの課題である。
- ・ 青森側と一緒に協力して行いたい。知事同士の会談も可能であると思う。

こうした話を受け、青森港関係者に上記内容を伝えた。青森港関係者は、日本で得られるフェリー船売却情報を沿海地方政府に提供した。その後、中古フェリーの買い入れ入札があることをロシア側に通報した。入札の対象となっているフェリーの規模はロシア側の意向に合うものであり、その取得を希望したが、ロシア側には資金のゆとりがないため、日本側で購入し、それを裸備船の形でロシア側がリース受けし、最終的にはロシア側がこれを購入することが提案された。

中古フェリーの入札については、その入札時期までの期間が短すぎたため断念する結果となった。改めて、ロシア側の提案について説明のため来日したい、来日の際に覚書を作り、これを当面のロシア側の約束とし、後日正式な協定書の調印を行ないたいとの申し出があった。

これを青森側が検討した結果、青森の行政側は購入する意思はないこと、民間のリース業者もロシアへの船舶リースの経験がないことから、日本側が取得を前提とする話の来日では対応できないことを伝え、ロシア側の来日は実現しなかった。



図 3-1-1 沿海地方府の提案航路